統合失調症と家族

ハートクリニック家族教室

2014年9月7日 小林武文 ・統合失調症の概要

・統合失調症の治療

・統合失調症患者さんの家族対応

・統合失調症の概要

・統合失調症の治療

・統合失調症患者さんの家族対応

統合失調症の概要

• 疫学

• 原因

• 症状

疫学

・思春期から青年期に発症することが多い

・発症頻度は、約100人に1人

原因

・中枢神経の脆弱性 …ストレスに対する脆さ

・思春期までの家庭環境や社会環境の影響

症状(総論)

• 陽性症状

• 陰性症状

• 認知機能障害

陽性症状

・通常は存在しないもので、 派手で目立つ症状

・幻覚、妄想、思考過程の障害、奇異な行動など

陰性症状

・通常は存在するはずなのに欠如した もので、地味で捉えにくい症状

・ 感情鈍麻、意欲低下、自閉など

認知機能障害

・記憶力や判断力の低下

・行動の目標を設定し、柔軟かつ 計画的に考え実行する力の低下

症状(各論)

• 幻覚

• 妄想

・ 思考過程の異常

• 感情鈍麻

• 自閉

幻覚(幻聴が中心となる)

- ・自分の考えが声となって聞こえる
- 他者が自分の行動について とやかく言う
- ・複数の他者が自分について 批評し合う声が聞こえる



妄想

・誰かに危害を加えられる

・じろじろと他人から見られている

• 何もかもが自分と関係あると考える

思考過程の異常

個々のアイデアの間に論理的な 結びつきがなくなる

・浮かんでくるはずのアイデアが 途中で止まってしまう

感情鈍麻

・外界の刺激に対して、喜怒哀楽を 感じなくなる現象

自閉

・自分の殻に閉じこもり、周囲との 接触が少なくなった状態 ・統合失調症の概要

・統合失調症の治療

・統合失調症患者さんの家族対応

統合失調症の治療

• 薬物療法

• 精神療法

・精神科リハビリテーション

薬物療法

・できるだけ早期の開始と 必要十分量の使用が必要

・症状が良くなっても、しばらくは継続が必要

薬物療法(服薬管理)

・ご家族の服薬管理が必要な場合も

・拒薬傾向が強い場合には、 1回の注射で2週間の薬効が 期待できるものが有用。

薬物療法(副作用)

- 絶えず足を動かし、立ったり 座ったりを繰り返す
- 足のむずむず感
- ・口の渇き、便秘、体重増加など

精神療法

・患者さんの悩みや心配事などの 訴えに耳を傾け、一緒に考える

・病気の特徴や治療法、 取り組み方などを説明する

精神科リハビリテーション

・ 患者さんの社会的引きこもりを 防止する

・来るべき社会復帰に向けたリハビリテーションが必要

精神科リハビリテーション

• 作業療法

· 生活技能訓練(SST)

作業療法

- ・実生活における活動 …袋はり、木工、農耕など

生活技能訓練(SST)

・認知行動療法の一種

・社会的認知機能の歪みを 自覚し、正しい方向に持っていく ことができるようにする

生活技能訓練(SST)

- ・服薬管理、身だしなみ、 食事の支度、金銭管理などの 一定の課題に対し、解決方法を 考える
- ・最終的には、自立した社会生活を目指す

・統合失調症の概要

・統合失調症の治療

・統合失調症患者さんの家族対応

統合失調症患者さんの家族対応

孤立感を埋めてあげることが大事!

- ・相手の気持ちをわかってあげる
- ・受容的な態度で接する
- 生きているだけで立派なんだと認める

相手の気持ちをわかってあげる

・幻覚や妄想は、否定も肯定もしない

・感情的に批判したりせず、温かく見守る

受容的な態度で接する

• 話をよく聞いてあげる

• ほめ上手になる

・希望を持って接する

患者さんが抱える生活のしづらさ

・ 生活技術の不得手

• 対人関係

・ 就労能力の不足

生きているだけで立派だと認める

生活のしづらさという重荷を 背負って一生懸命に生きている

生きているだけで立派なこと なのである

大事なのは、患者さんの 孤立感を埋めてあげること

孤立感を唯一埋めてあげることが できるのが、ご家族の力です!



ご清聴ありがとうございました。